

えんていあん

【新連載】国立極地研究所
オーロラの不思議

8

応援します! 《極地研》

立川と語ろう 立川に生きよう

August 2009

écoutez bien Vol.27 No.297

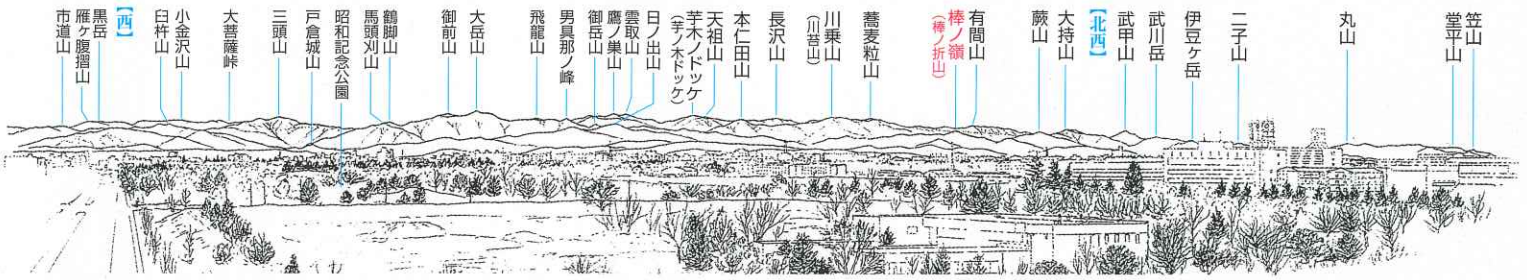


続々・立川から見える山 ①

棒ノ嶺 (棒ノ折山)

969m

案内人：守屋龍男
山岳展望図：藤本一美



多摩モノレール 立川北-高松間より

低いながら関東平野一望

[棒ノ嶺へのコース]

1. 自家用車でさわらびの湯まで、青梅市の小沢峠経由で約1時間。西武飯能駅から路線バスもある。さわらびの湯-10分-有間ダム-20分-白沢谷コース入口-2時間-岩茸石-30分-ゴンジリ峠-10分→棒ノ嶺(往路戻る。歩行時間約5時間)
2. 奥多摩に行くコース：棒ノ嶺-1時間-奥茶屋キャンプ場-30分-上日向=バス10分=JR川井駅



奥多摩町と埼玉県飯能市の境に位置し、いつも多くの登山者で賑わっている。ちょっと変わった山名の由来は、鎌倉時代の武将畠山重忠がこの山を越えたとき、杖代わりの棒が折れてしまったので「棒の折れ山」と呼ばれ後になまって「棒ノ嶺」になったとか、茅(ぼう)が多かったので棒ノ嶺になったなどと言いつたられている。

平成20年8月の猛暑のさなか登った。飯能市郊外の有間ダム下の県営さわらびの湯からダム沿いの遊歩道を歩き、白沢谷の沢登りコースに入る。両側が断崖の廊下状の谷を何回も溪流を渡り返しながらか登る。ところどころにイワタバコが紅紫色の可憐な花を咲かせ、暗い谷間に彩りをほどこしていた。長い鎖場をよじ登るとようやく沢が終わり、ほどなく岩茸石に着く。ここからは一転して丸太階段が何百段も続く尾根道だ。雨で土が流されむきだし丸太が多く、実に歩きにくい。

小ピークのゴンジリ(権次入)峠を越え、最後の丸太の階段道を我慢して登ると、広々とした明るい山頂に飛び出した。爽やかな風が汗ばんだ頬に心地よい。今日は展望があまりよくないが、それでも奥武蔵の山々や関東平野が霧の中にくっきりと浮かんで見える。晴れた日には都心の超高層ビル群から日光連山や筑波山と、関東平野を一望できる。

足元にはオトギリソウやノアザミなどの山野草がそっと咲いている。そばにはナワシロイチゴが熟した実をたわわにつけている。雲行きが怪しくなり、遠くで雷も鳴り出したので、名残が尽きぬが下山。往路を戻り、岩茸石で登りで使ったコースから離れ、長大な滝ノ平尾根を下る。下り着いて振り返ると、棒ノ嶺山塊が大きく屹立していた。



波多野登志夫さんは武蔵村山にお住まいです。ご自宅にうかがって剣道との出会いなどをお聞きしました。

剣道との出会い

おやじが警察官だったからね、兄弟もみんな剣道をやりました。私は昭和20年生まれですが、戦後武道教育が禁止されていて剣道をやることができなかった。剣道が再開されたのは昭和27年で、私は小学校2年、8歳から剣道を始めました。八段には49歳で合格しました。段取得にはいろいろな規制があつて、当時私は七段に合格してから受験するまでに15年待たなければならなかった。でもねこの15年にいろいろな心の向上があるんですよ。今は七段合格から10年待てばよくて、46歳から受けられるようになりました。



駿河台大学剣道部

歴史のある有名大学には、全国から剣道でも何でも強い選手が集まってきました。駿河台大学は歴史がまだ浅い。私が師範としてこちらの大学に来た当時は、強い選手をとるといふより、入部してきた学生を剣道部で育てるといふ感じでした。やがて、育てて行くうちに全国大会に出場できるようになり、10年前からは全国の高校から強い選手を募ることができるようになったのです。和歌山や群馬、鹿児島からなんかも来ていますよ。

「剣は手に従い、手は心に従う。心は法に従い、法は天に従う」

これは神道無念流の極意。人生も同じじゃないですか？努力したつて方向が違えばうまくいかない。自然の摂理。川だつてそうでしょう。流れに逆らつたらだめなんですよ。何事も自然体。自然体で、自分を無くして向き合うことです。



立川と語る 剣道八段 波多野 登志夫さん



立川駅南口から諏訪通り商店街に向かう道。剣道具店 南武堂は波多野登志夫さんのお店です。立川にお店を出して40年。東大和高校の剣道部師範を経て、駿河台大学剣道部師範に。週に2回は稽古にも顔をだし、学生を指導します。剣道八段。この道の達人は、強くてやさしい、そしてとってもおしゃれな方でした。



「真似がうまいということは大変なこと」

これも剣道だけに限らない。何事もまじは人の真似。人の真似ができるということは、よく観察しているということに通じる。下手なやつは真似も下手。どう真似ていいか、観察力がないのでわからないんだね。真似がうまいということは、上手な人の真似もうまいが、下手な人の真似もできる。つまり違いがわかっていくということ。

「技前ができれば、稽古で100点とっても試合では勝てない」

面を打ってきた相手に返し胴。こんな練習をいくらしても、その前が大事なんだよ。この技が使えるのは、相手が面を打ってきたとき。相手に面を打たせるようにしむけなければ、その作業ができなければ、こんな基本練習をいくらやっても勝てない。返し胴が100点満点でも、相手を面に出させることができなければ



「一流は自分を一流とは思っていない」

常に自分には何が足りないか、自分はどうして極められないのかと考えている。それが一流になっていく人の共通点。まだ足りない、何が足りないのかと練習するから結局人の何倍もの練習量になっていくし、基本中の基本が大事なんだと自分でわかっていくんですよ。

八段への道

八段はなかなか合格しない。相手を意識しているうちはダメだね。相手ではないんだ。対するものはいつも自分

だめなんだ。これを技前という。相手を引く張りだす作業のことで、相手が出てこなければ何度でもやり直す。ここには何分かけてもいいんだよ。



す。すべては自分なのだ、自分で気がつかない限り変わらない。ああ、自分だつたのだと気がついたら、人はそこから変わるんだ。剣道の理念とは「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」です。でもこれをお題目のように唱えていても、決して剣道が上達する訳ではない。私はこれを1つ1つ分析しました。例えば理法という言葉。理法とは理想的な方法です。それは何かと言えば、刀法、礼法、身法、心法。すべて相手は関係ない。自分です。人間形成の道とは自分との戦いです。素質もありますが、最後は性格がいいこと。性格がいいとは、素直であること。それに尽きます。

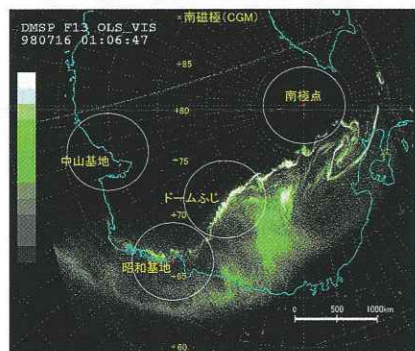
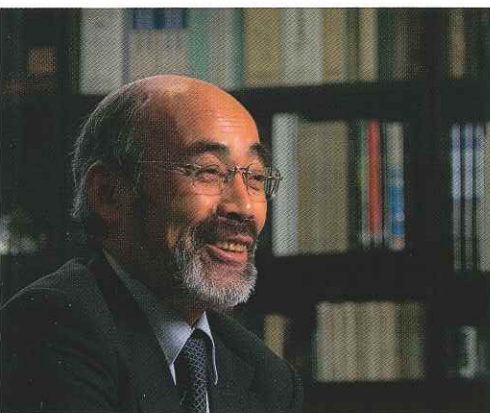
オーロラの不思議

立川市緑町。自治大学を北へ向かうとガラス張りの国立国語研究所。その先には、八王子から移転してきた東京地方裁判所。その西に、国立国文学研究資料館があり、同じ建物内に5月には国立極地研究所が移転してきた。10月になると国立統計数理研究所もやってくる。立川に新しい風が吹いてきた。『アカデミックたちかわ』。当分ここから目が離せない。

案内人 佐藤夏雄

プロフィール

国立極地研究所副所長 昭和基地とアイスランドでのオーロラ同時観測によるオーロラの南北半球の対称性・非対称性の研究、及び、国際短波レーダー網である SuperDARN レーダーを用いた電磁圏変動の研究を行っている。
理学博士(東京大学)



人工衛星から見たオーロラ帯

バンド状オーロラ
オレンジ色の光はロケット発射の軌跡



オーロラは、その場所へ行かなきゃ見られない

日本だと北海道で10年に1回くらいは見られるかもしれないというオーロラ。太陽活動の最大期で見えたとしても、ぼんやりとした程度の明るさ。感動するような激しい動きの明るいオーロラは、やはりオーロラ帯と呼ばれるアラスカ、カナダ、スカンジナビア、アイスランドそして南極昭和基地でしか見られない。それらの場所ではオーロラが出る確率は同じだが、天気が左右してくるといふ。オーロラ帯にいても、晴れていないと見えないのがオーロラ。

太陽とオーロラはとても関係が深い

「太陽がクシャミをすると、地球が風邪をひく。オーロラを研究していると、太陽と地球の関係がわかってきます。宇宙気候の研究もしていて、1600年代、マウンダー極小期と言われる、太陽に長期間黒点のない時期があった。その時、地球上は寒さが厳しく大凶作だったという記録が残っています。太陽は変化がなく輝き続けているかと思っただけで違わぬです。時々刻々と秒単位で変わっています。また、コロナの大爆発が頻繁に起きるなどの太陽活動は11年周期で変化しているんですよ。それらを知らせてくれるのもオーロラです。オーロラの源になるのは太陽です。」

地球には磁石があって、太陽にも磁石があります。その両方の磁石が、磁石の方向が反対になるとくっついて、太陽から飛んできて

いるプラズマが地球の磁石に取り込まれます。地球の中に取り込まれると、極域の電離した大気にぶつかって光る。太陽活動を伝えてくれるのがオーロラということです。」

オーロラの嵐

オーロラが起きているのは、地上100kmから500km。薄い空気がないとオーロラは起きない。オーロラとは、いわば、電子が勢い良く降り込んで空気の粒子と衝突して光っていること。上空の薄い空気は電離して、電気を帯びた酸素や窒素の原子・分子となっている。電離している場所を電離層と呼び、その下辺が90kmから100kmで、そこから上でないとはならない。

そこへものすごい勢いで電子が降ってくる。私たちの目には美しいオーロラの形に見えるが、その形に沿って電子が降っているということになる。降ってきた電子が、電離している酸素原子やら窒素原子・分子にぶつかって光る。パラパラ降ってきていると弱くぼんやり見えるが、塊で降ってくると明



太陽活動極大期の赤いオーロラ

るカーテンのように見える。

降ってくる電子のエネルギーが強いと青くなる。その次は緑。弱いと赤くなる。本当に強いのは、裾のヘリだけピンク色。オーロラの大嵐と言って、それを見ると本当に感動するという。嵐と言うが、耳で聞こえる音はしないが、ものすごい電流が電離層を流れている。エネルギーとして使いたいが一瞬のことで蓄積がむずかしい。嵐の時は、空が明るくなって、速い動きが起きる。コロナ状オーロラは真上を通り過ぎる時に起こる。その光景は、光のカーテンが降り注ぎながら通り過ぎていく全くの別世界。感動をどう表していいかわからなくて、みんな吠えるだけだという。作ることのできない、自然のすごさがそこにある。

日本のオーロラ研究

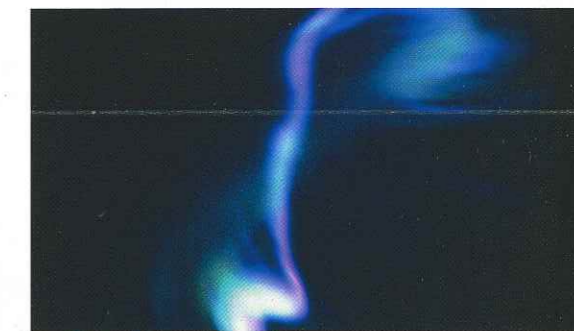
「オーロラを昭和基地とアイスランドの基地で観測しています。『共役点オーロラ』と言いますが、この2カ所の観測点は北半球と南半球であることをのぞけば、一本の磁力線に結



アイスランドの観測基地 チョルネス装置



ニードル(針)状オーロラ



アーク状オーロラ

ばれた地磁気の緯度経度が重なり合う世界で唯一の観測点です。つまり日本しかこの観測はできないということになります。

赤祖父俊一先生という世界的に有名な方がいらっしゃいます。カメラの写真しかなかったころ、観測所で撮ったカメラの写真を集めて、あとは豊かな想像力を発揮し、オーロラの全体像を時間の経過で極域全体がどうなるかということを示す、人工衛星で撮ったかのような絵を作った。それはすごいです!

オーロラの研究はまだ歴史が浅いです。せいぜい4、50年。最新の観測装置を使って無人観測をしようとするのは国際的な動きです。でも、越冬隊でなければできないこともたくさんある。オーロラそのものだけの研究なら北極だけでいいかもしれない。しかし、共役点オーロラの研究をしているのは日本だけ。北と南の比較をするのがテーマだから、他の国にはできないのだから、南極で越冬する意味がある。極地研は北極と南極の両方を研究する。だから極地研。極地から地球全体を見ていくんです。」



アーク(弧)状オーロラ



コロナ状オーロラ

矢川緑地を歩いてみれば

私たち俳人にとって、八月はもうすっかり秋。暑い暑いと嘆きながら、それを「残暑」と呼び、どこかに秋の気配を探るのが習性になっている。風鈴がチリンと鳴れば「秋の風鈴」と詠み、誰かがパタパタと扇子を使い出すと「秋扇（しゅうせん）や」などとやる。だから句会で夏の句など出すと、はや色褪せて見える。

て微笑ましい。ミゾソバはソバとよく似た野草だが、ママコノシリヌグイとなる。漢字で書くと「継子の尻拭い」。茎も葉もざらざらしていて、これこそすつたら痛みに違いない。アキノウナギツカミも、ざらざらなのでウナギが掴めるというわけ。どちらもミゾソバとそっくりなので簡単には区別がつかない。

周囲の開発が進む中で、からくも都の緑地保全地域として指定され、市民ボランティアの方たちも関わって湿原の景観が維持されている。湿地でなければ見られないオギヤガマ、ハンノキなども観察できる貴重な場所になっている。ここを吟行地として毎月訪ねるようになり、すでに五年の歳月が流れた。「定点観測」は私たちの会のモットーで、かなりマニアックな集団である。

だからこんな句も生まれる。返事して立つやままこのしりぬぐひ 郷子

八月初旬、矢川緑地あたりを吟行すると、さまざまな秋の草花に出会う。ツユクサ、ノギク、エノコグサ（エノコログサ）、イヌタデ、サクラタデ、キンミズヒキ、ミゾソバ（またはママコノシリヌグイかアキノウナギツカミ）、キツネノマゴなどなど。

もつとも俳人としてはこのあたりに入りしなないでおく方が無難。いずれにしても可憐な花たちには違いなく、キツネノマゴ（これまた私たちのアイドルなのだが）をのぞいてすべて秋の花として俳句に詠まれている。ちなみに「草の花」といえば、そもそも俳句では秋のことばになっている。



イラスト：小林木造

「富士見町音楽を楽しむ会」10周年

地元でクラシックなどいい音楽を楽しみたい滝ノ上会館で有志が始めた「富士見町音楽を楽しむ会」(荻野芳廣会長)が10周年を迎え6月21日、記念式典+コンサートがパレスホテルで開かれた。



現在会員は50数名だが、会員が知り合いを誘い、そのまた知り合いも誘ったりと輪を拡げ、滝ノ上会館でビデオやDVDによるオペラを中心にしたクラシック鑑賞、年末恒例の名指揮者による「第九」鑑賞などのほか、藤原歌劇団の第一線で活躍するオペラ歌手によるミニリサイタルなども開催。多摩・東京のホールでの生の公演鑑賞、それに先立ってアミューたちかわで開く「レクチャーコンサート」と、実に活発。

記念式典には会員をはじめ110数名が出席。藤原歌劇団・牧野正人さんが1時間半近くわたってオペラのアリアや歌曲を熱演し、萬田貴久・立川商工会議会頭の音頭で乾杯。企画する人、広く呼びかける人、音楽を解説する人、運営の土台になる人……人の輪でつくり上げてきた10周年を祝った。

街の話題

極地研に展示コーナー開設

緑町にある国立極地研究所に展示コーナーができた。展示物は南極大型模型、昭和基地模型、観測船模型（この中には本年11月に就航する新「しらせ」も入っている）、生物標本、隕石標本、岩石標本など。生物標本にはアデリーペンギンやコウテイペンギン、北極キツネやあざらしなどのかわい動物、隕石には火星隕石や月隕石、中には月の裏側からとんできた隕石も展示されている。

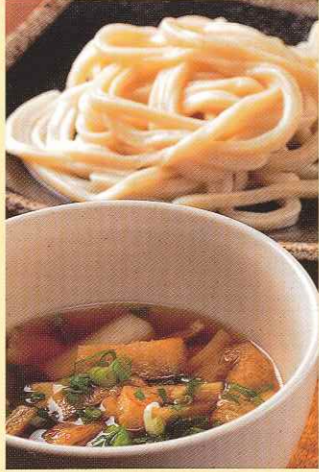
衛星回線を通じて、昭和基地のリアルタイムの映像も見ることができる。運がよければ、南極観測隊員が雪かきしている様子も見られるとか。遠い南極が近く感じられる展示コーナーだ。

えくてびあんの兄弟サイト「多摩てばこネット」では、8月から「南極観測隊ログ」を始めます。11月の出発の前に立川で準備をする南極観測隊員の様子、出発した隊員が南極に着いた連絡や南極での生活など、速報でお知らせして参ります。南極と立川はつながっています。どうぞご期待ください。

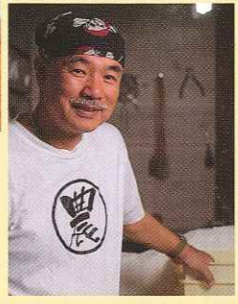


Table with 2 columns: Store Name and Phone Number. Includes entries like 林 齒 科, 中 島 豆 腐 店, フレッシュフルーツ 立川商店, etc.

この人この店 うどん農場 (73) 新井 仁さん



平成新道沿いにあるうどん屋さん。マスターはハーレー乗り。昔懐かしい中に、どことなく海の香りや異国の情緒が漂うお店です。メニューを見ると、武蔵野うどんの定番「肉汁うどん」。温かいつけ汁には、豚肉と地元尾崎農園の採りたてネギが入っています。太めの地粉うどんは少し黒くて、プリップリ。箸でつかむと質感が手に伝わってきます。汁につけ、口に入れるとすぐわかる、一本一本の密度の濃さ。小麦粉の香りが鼻に抜け、思わず「おいしい!」と声に出ます。このうどん、足で踏まないうどんです。マスターが考案した機械だと、足で踏むより10倍速くうどんを鍛えることができるそう。生地を最高の状態に保ち、注文を受けてから鍛え直してうどんを切り、うどんそのものおいしいからできるアレンジメニュー。うどんはごちそうだと感じるはずですよ。



〒190-0031 立川市砂川町 4-30-6 ●TEL 042-535-3539 ●営業時間 11:00 ~ 21:00 ▶多摩てばこネット(お店のコーナー)にも掲載中。

Advertisement for jorakugajo, featuring a phone number and website URL.

Advertisement for ValueUp, featuring a logo and promotional text about customer service.

かたこと 暑い夏も8月半ばになると秋の気配がまじるようになります。立川もお諏訪さまのお祭りでそろそろ夏も終盤。学校ならばもうすぐ新学期。『えくてびあん』も8月号をお届けします▼『えくてびあん』は1984年8月号が創刊ですのでちょうど満25年。本号からは26日目。人間に喩えれば満25歳。いよいよ大人として世の中を自力で歩きだす頃でしょうか▼8月号から表紙をはじめ内容も変わりました。全ページをカラー化した誌面で、今春立川に移ってきた国立極地研究所を年間企画として取り上げ

て参ります▼南極や北極というと何か遠い場所のようですが、その研究が実は太陽系や地球の成り立ち、地球規模の環境変動にも密接に結びついている。立川にそういう研究機関がある。すばらしいことです▼すばらしいということでは、剣道八段の波多野登志夫さん。剣の道の奥深さは人の生き方にも通じるようです▼連載企画として「続々・立川から見える山」、石田郷子さんのエッセイ「木に花 草に風」もスタートしました。創刊25周年の夏、いつも新しい発見をお届けできるよう、気持ちも新たに出発したいと思います。

えくてびあん (c) 8月号 第27巻 通巻297号 平成21年8月1日発行
発行 有限会社 えくてびあん
〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
発行人 黒須 環
編集人 芳賀敏博
編集スタッフ 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMMNET design factory
写真 五来孝平/中村 伸
印刷 株式会社 大廣社
無断転載を禁じます。

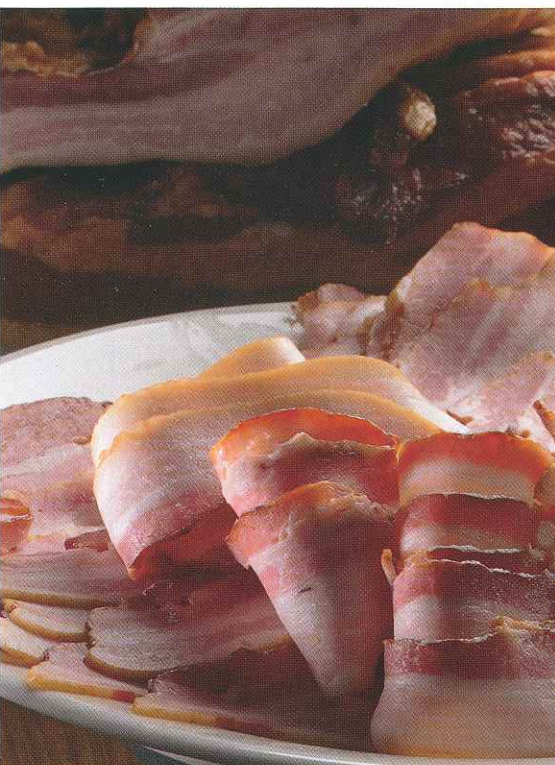
表紙の人 澤田 孝さん(富士見町)
元禄時代から続く立川の伝統芸能・獅子舞。お正月の賑やかなお獅子とは違い、法螺貝や笛、ゆったりとした唄に合わせて諏訪神社に奉納される古式豊かな芸能を伝承する立川市獅子舞芸能保存会会長。かつては富士見町は棒仕、柴崎町は獅子舞と分かれ、各家の長男だけが演じた。格式張った区分は消えても地域で伝統を支えるのは今も昔も同じ。富士見町生まれの会長には、かつて演じた棒仕の所作をしてもらったの撮影となった。今年も諏訪神社例大祭で奉納する。
柴崎町「獅子宿」で 写真:細江英公



立川にごちそうあり!

【番外編】

立川の一押しグルメ



手作りベーコン

子どもの舌は敏感で、並べておくとおいしいものだけを選んで食べる。ゼーホフのハムやソーセージは、グルメな子どもたちにも大人気。常連のお客様は焼き上がりの時間を知っていて、その頃になると続々とやってくる。土曜、日曜はケーゼの日。焼きたてのケーゼは、ジワッと脂が浮き出して光りながら「食べてほしい」と呼んでいる。試食用に切り分けてもらう。熱々で、柔らかくて香りが豊かで、思わず100gって何枚?と聞いてしまう。

焼きたてのフライッシュケーゼと
チーズケーゼ

手作りソーセージ各種

何を食べてもはずれはない。それがゼーホフの製品。それでも一応ソーセージを見渡して、今日は何にしようかなと考えてみる。ハーブにするかパプリカにするか? チーズの入ったトスカーナにするか……。何を食べても必ず注文するベーコン。薄切りをそのまま食べるとよくわかる。とろける脂が、サラッとしていて甘い。たくさん買ってもそんなに財布に痛手はない。そこがまた主婦には本当にうれしいところ。少し遠くても、ぜひ足を運びたいお店だ。